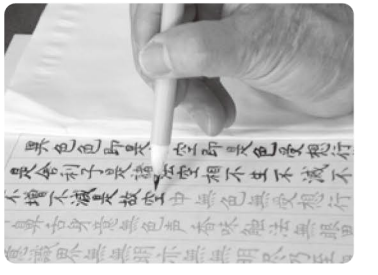
自分自身を見つめて

第300回 写経会（しゃきょうえ）

5日（日）8時から
船橋市 大念寺



祈りを込めて一筆一筆 25年間休むことなく継続

（6月から9時スタート）

船橋市馬込沢の浄土宗大念寺（大島祥明住職）で毎月第一日曜に開催されている写経会がこの5日、記念すべき第300回を迎える。25年の長きにわたり一度も休むことなく開催され、毎回、多数の参加者でにぎわう大念寺を訪ねた。

「写経とは印刷技術のなかった時代にそれぞれが自分のお経を持つため、また世に広めるために写したことが始まり。座禅よりもやさしいやり方で集中力、根気がつき、心を落ち着かせることが出来る」と住職で浄土宗の僧正でもある大島祥明さん。

大念寺　大島祥明住職

写経はごはんを食べるのと一緒

25年間、継続するのはさぞかし大変なのではなかったか、と尋ねると「ごはんを食べるのと一緒。大変などと思わずに経った。これからも気負わず続けていくだけ」と淡々と語る。25年前と今と変わったところは、の問いには「最近では私の著書を読んだことがきっかけで参加してくれる人も増えた。全国から問い合わせがある。しかし、身近な人のご供養や祈祷のために訪れる人の心は昔も今も変わらない」と住職。

1989年（平成元年）の発会当初から25年間通っているという鎌ケ谷市の西久美子さん（79）は、「主人が亡くなったことがきっかけで写経会に通うようになった。家で主人の分、こちらのお寺様では身近な人のご供養のために書いている。来寺するのが仕事のように習慣になっていて全く苦ではない」とすがすがしい笑顔だ。

写経に必要な道具はすべて揃っているので、身軽に参加出来る。事前申し込みは不要なので初心者にもハードルが低く親切だ。会場の入り口で筆を選び、好きな席に座る。机上にはお教を薄墨で印刷した紙、墨、硯、文鎮が用意されている。椅子席もあるので足に負担がかかることなく写経することができる。

清逸な空気が流れる写経会場

手本の紙の上からなぞるだけだが、集中力と根気がいる。気がはやると上手くいかない。やはりここは心を静めて一筆一筆、祈りを込めるように取り組むのが良さそうだ。納経の後はロビーでしばし歓談。同寺からお茶とお菓子が振る舞われ、参加者同士が和やかな一時を過ごす。約1時間の集中から解放され、心がほっと解き放たれる心地良い一瞬だ。

写経後の安らぎのひととき、茶菓をいただく

全国から人々が集う写経会と法話会

写経の後には大島住職による法話会が開催される。

写経のあと、納経をする参加者

こちらは5日の開催で151回目。写経だけでなく仏教についても学びたいという参加者の依頼が始めるきっかけだったとか。住職が仏教だけでなく生き方や生活の中での困りごとの解決方法など、身近な事柄を分かりやすく教えてくれる。

大島住職の著書で昨年11万4000部が発刊された「死んだらおしまい、ではなかった」（PHP刊）の読者が遠方より来寺することへの配慮から、6月の写経会から開始時間が1時間遅くなって、午前9時からとなり、法話会は午前10時15分開始、11時30分までに変更になる。

誰でも参加出来る写経会に、記念すべき第300回目から参加してみるのも良いだろう。写経会の参加費は500円。法話会は無料。どちらか一方だけの参加も可。同寺へのアクセスは4頁「和みの郷霊園」地図参照。東武野田線「馬込沢駅」からゆっくり歩いても15分はかからない。

▽問い合わせ☎047～439～6547（大念寺）